



27日開催分の①②⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑯⑰分科会が開始！！

東北から九州まで全国各地から、現地・オンライン三十人以上の出席で分科会が始まり、午前は「再発見と再生」「復興と継承」をテーマとした、研究者・実践者の報告がありました。▼吉村さんは、ご自身の地元、池園町のだんじり祭り解散の事例をもとに課題を提起され、その課題は、①生業の変化、②生活の変化、③少子・高齢化・過疎化、④学校や社会の変化に加え、マスクミ・カメラマン・研究者による「価値づけ」



演舞・実演

⑯ 地域文化

の影響に対して、どのように考えていけば良いのか、というものでした。▼福持さんの報告では、行政による無形民俗文化財保護の視点から、①文化財専門職員の配置、②民俗学研究者の立場、③伝統行事ボランティアへの期待、④補助金の活用について、課題が提起されました。▼これらの課題提起について、午後からの全体討論で話し合われる予定である。それぞれの報告を聞きながら、祭りだけでなく、「地域の習慣」レベルの文化が、地域住民をつなぐ重要な要素になっていることを感じ、また、当事者を励ましたり、良さを知ってやる気を出してもらったりするために、少し離れた立場から関わる人の存在が大切であることも考えました。(吉水)



報告者

⑰ 地域文化・演舞

昼食休憩の時間には、地域文化の分科会の特別編として、和歌祭の舟歌・粉河祭だんじりばやし・東佐味の六斎念仏を披露してくださいました。和歌祭の舟歌は、船上で歌う歌ということもあり、遠く、海原へ呼びかけているように、粉河祭のだんじりばやしは、山車の速度、状態によって囃子が変わることでしたが、腕の高さや目線などがきれいに揃っており、息合を感じました。東佐味の六斎念仏は、いったん途絶えてしまったものの、有志の方々が録音されたテープなどを聴きながら練習しているそうで、厳かなながらもにぎやかな雰囲気を感じ取ることができました。同じ「祭の歌」であっても、まったく印象が異なり、地域によってはぐくまれてきた文化・慣習が大きく影響しているのだと感じました。

(玉置)

⑦ 平和

報告者を含め17人が参加しました。新聞「うずみ火」編集長の矢野宏さんによる「人と人とのつながり」を重視した新聞発行の取り組み、「カクワカ広島」などの活動を精力的に行っている高橋悠太さんによる核廃絶への取り組み、そして昼休憩をはずさんで川崎市職員の佐治真由子さんによるウクライナ侵略をめぐる「まなざし」を問う学習への取り組みの報告があり、それぞれについて活発な質疑応答が行われました。その後、三つのグループに分かれたグループ・ディスカッションを行い、戦争のない社会に向けた様々な考えや想いを共有することができました。



(伊藤宏)

最後に各グループから出された論点をまとめた全体ディスカッションをし、分科会を終えました。

① こども

第一分科会（子ども）では、こども家庭庁発足を背景に、子ども支援のあり方を改めて考えるため、三つの実践事例【①尼崎市ユース交流センター（片岡一樹さん）、②北摂こども文化協会「水月児童文化センター」（杉本麻衣さん）、③NPO法人えーる（朝日陽子さん）】の報告がありました。どの発表でも、**子どもたちの「声」（声にならない声）、「Opinion」ではなくViews）を丁寧に聞き取り、寄り添う活動**が行われている様子を伺い知ることができました。他方で、「**子どもの意見を聞き、尊重し、寄り添う**」ということはどういうことなのか、手探りで子どもたちと向き合う発表者の語りもありました。**子ども支援に試行錯誤する「身近な」大人たちの存在の重要性**に改めて気づかされます。

（井上）



⑨ 自治体改革



「自治体改革と住民の学び」の分科会では、「**指定管理者制度の再検証と自治体改革の課題と公共責任を問う**」というテーマで約35名が集まりました。午前中は、指定管理者制度の現況を確認した後、指定管理を受託・委託している公益財団法人（仙台、広島）や企業（大阪狭山市）、自治体（宮城県白石市）から受託の経緯や現在の活動内容の報告がされました。午後は、奈良市生涯学習財団の現状と課題、公民館再編について報告がありました。盛りだくさんの内容でしたが、**職員の人材育成や事業の継続性、公民館が社会教育法に則った教育機関であることの意味**が共通して強調されていました。（水本）

⑩ 自治と共同

北海道から九州までの全国からおよそ四十名と、韓国から八名の皆さんを迎えました。通訳の方を通じての意見交換もあつて、国際的な雰囲気の中会となりました。午前中は三つの実践報告が行われ、和歌山県の「**天野の里づくりの会**」谷口千明さんが、地域のよさを生かした里づくりの取り組みで多くの移住者を迎えて活性化することを、京都府の「**天引区の活性化と未来を考える会**」の原田久さんが、地区活性化11年の取り組みで古い村型社会と人の考え方を大きく転換させたことを、東京都の国分寺光公民館の加藤友志さんから、**公民館がサポートした地域における人権学習の取り組み**が報告されました。午後は、各報告者への質問が矢継ぎ早に出され、そのあと、**住民の主体の学びをどう広げよう**と継承するか、**自治活動での学びの大切さ**としてそれを支える**公的社会教育**には何を期待するのかなどについて討論を深めました。（杉本智）

⑩ 農業

第10分科会「食と健康と農業―農をめぐる学びと協同―」にお邪魔してきました！議論の中で出た「**年金で農業の赤字を補っている**」という発言が非常に印象に残っています。これまで何となく、農業は自然や変動しやすい価格に左右されやすく、生活を成り立たせるのは難しいという印象を持っていましたが、年金で赤字を補填している方がいることを知り、米作りをはじめ、農業の厳しさを改めて感じました。議論の中では、食への関心は年々高まっているものの、関心の輪をどのように広げ、どのような学習をしていくかが今後の課題であり、「**コロナ**」という共通の土台に立って、すべての人が、**農業・食・環境を自分事としてとらえること**が対話のきっかけになると述べられました。



「**コロナ**」という共通の土台に立って、すべての人が、**農業・食・環境を自分事としてとらえること**が対話のきっかけになると述べられました。

（玉置）